獣医師を目指された理由と、専門の研究分野は何ですか？

中学・高校の頃から生き物が好きで、大学受験では理学部生物学科を狙いましたが、結果は浪人。その時、「せっかくなら大型動物も扱え、資格も取れ、卒業後に幅広く活躍できる獣医学部にしよう」と考え直したのがきっかけです。そして、獣医学の中でも重要な分野の一つで、研究のレベルも高い「獣医臨床繁殖学」を専攻し、現在に至っています。

主にオスの生殖器疾患や不妊治療を専門として、教育・研究と、本学付属の動物病院「動物医療センター」で診療にあたっています。また、東京動物園協会と連携し、動物園が飼育する野生動物、特にツシマヤマネコなど絶滅危惧種の繁殖にも携わっています。

獣医学部のカリキュラムと学びの特徴を教えてください

本学部は、獣医学科と獣医保健看護学科で構成されています。

学部長インタビュー

獣医学部の魅力とは？

インタビュー・文／小林弘明（本誌）

動物にも飼い主にも優しく気遣える獣医師・動物看護師を目指してほしい

私立

日本獣医生命科学大学
獣医学部

学部長　**河上 栄一**

（かわかみ えいいち）1978年、前身の日本獣医畜産大学獣医畜産学部獣医学科を卒業。1980年、同大学院獣医学研究科修士課程修了。2002年から同大学獣医学部教授、2015年から現職。専門は獣医臨床繁殖学で、産業動物や伴侶動物（ペットや補助犬など）の生殖器疾患に関する研究・治療をはじめ、動物園で飼育される絶滅危惧種の繁殖にも取り組む。

本学部の獣医学科の特徴は、犬や猫など小動物の診療や研究を得意とする、都市型の獣医学科である点です。付属動物医療センターで扱う小動物の症例数は、東京大学に次いで多くなっています。

獣医学科では１年次から基礎専門科目を学び、２年次から本格的に基礎獣医学の講義や実習が始まります。

３年次には専門分野を決め、研究室に所属します。珍しいところでは、野生動物や動物園の飼育動物について学ぶ「野生動物学研究室」、魚類や海獣類などの水生動物について学ぶ「水族医学研究室」といった、獣医系大学で初めて設置された研究室もあります。

３・４年次には富士山麓の付属牧場「富士アニマルファーム」で、牛や馬など大型の産業動物に直接触れ、健康な状態を把握する「動物衛生学実習」を行います。実習では、牛の直腸に手を入れ、腸内や子宮、卵巣などの状態を検査したりもするのですが、この時は決まって、女子学生の方が積極的に取り組んでいますね。

その後、５年次の７～８月に、2017年度から本格的にスタートした全国の獣医学科共通の評価試験「獣医学共用試験」を受験します。コンピュータで知識を問うvetCBT、診療の技能や態度などを評価するvetOSCEを受け、これにクリアすると、５年次後期から実際に診療に参加する「参加型臨床実習」が始まります。

獣医学共用試験に備え、スキルスラボで練習を重ねる。

本学科は2013年度から、他大学に先駆けて共用試験のトライアルを実施してきました。その成果は、本学科だけでなく、他大学の実施方法のベースとしても活かされています。

さらにはvetOSCE対策のため、係留の練習ができる牛の模型や、聴診、検温の練習ができる犬型シミュレーターなどを設置した施設「スキルスラボ」を開設しています。

一方、獣医保健看護学科は「動物看護師」などの専門職の養成を目的としています。傷病動物の世話や、治療の手助け、飼い主に対するケアなど、さまざまな局面で獣医師をサポートします。１～２年は獣医学科と同じく解剖学や生理学などの基礎を学び、３～４年では動物医療センターで実習中心に学びます。獣医師とのチーム獣医療を早期から学べ、臨床教育が充実している点が特徴といえるでしょう。

近年、最も重視している取り組みは何でしょうか？

現在、獣医系の各大学では「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」に対応するため、参加型臨床実習の充実を進めています。学生がより実践的な診療技術と知識を修得することで、質の

高い獣医療を提供できる獣医師を養成することが目的です。参加型臨床実習にあたっては、知識・技能はもちろん、飼い主、つまり人とのコミュニケーション能力が欠かせません。獣医師を志す人は概して動物好きですが、人間を相手にする職業でもあるという認識が、意外と抜け落ちているもの。飼い主は心理的に動揺しているので、ことば一つにも慎重な対応が求められます。

動物医療センターは、社会に直接通じる窓口のため、参加型臨床実習には最適な環境といえます。獣医学科では、この獣医療現場に出る前の５年次に「医療面接実習」を行い、模擬クライアント（飼い主役を演じる一般の人）を相手に、さまざまな局面でのコミュニケーションを重点的にトレーニングします。

また、獣医保健看護学科においても、学内に設置された模擬病院も利用した臨床実習が強化されています。

国家試験対策としては、どのような取り組みを？

獣医学科では６年次後期に、基礎から臨床実習に至るまで集中的に復習する「総合獣医学」を開講します。また、土曜日には比較的若い教員が担当し、国家試験につながる内容の補習講義も実施します。この「土曜学校」では、「ここを重点的に」など学生からの希望にも柔軟に対応しています。さらに、学生同士で小グループに分かれ、自主勉強会も行っています。

最新設備の校舎群にまじり、明治期の面影を残す１号棟。大学のシンボル的校舎で、博物館を併設する。

本学科では「国家試験対策委員会」が教員・学生の双方に設置され、「土曜学校」や、実習室・図書館の使用時間帯やスペースの確保など、相互に協力しながら対策を進めています。このため本学科の現役学生は、毎年ほぼ９割が獣医師国家試験に合格します。

一方、獣医保健看護学科では、「動物看護師統一認定試験」を３年生全員が受験します。同学科においても、教員の手厚い指導によって、毎年ほぼ全員が合格しています。

どのような受験生に入学してほしいですか？

獣医師は動物を救うだけでなく、「感染症の拡大を防ぐため」「助かる見込みがない」など、厳しい局面では安楽死させることを許可された、責任の重い資格であることも心に留めてください。

そのうえで、動物にも人間にも優しさと気遣いを持って対応できる人に、ぜひチャレンジしてほしいですね。そうした人が、必ず入学後に大きく成長しますから。